

【静岡県駿東郡長泉町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち1人1人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる、ICT環境を実現する。

2. GIGA第1期（令和5年度まで）の総括

本町では、令和2年度から、GIGAスクール構想に対応する学習ネットワークを整備し、一人一台端末を導入した。併せて授業支援教材として株式会社LoiLoの「ロイロノート・スクール」を契約し、意見共有等のため授業で活用してきた。現在では家庭での持ち帰りを行う学校もあり、学習用ドリル教材であるライonz株式会社「eライブラリ」を活用した家庭学習体制も整ってきた。

また、GIGA第1期では「Windows端末」を採用してきた。社会一般で広く採用されているOSであるため、円滑な運用開始ができた一方で、これによる各学校における課題点としては、教員や子どもたちが端末を安全に安心して使用するために、様々なセキュリティーやネットワークに接続するため、端末の起動が遅いこと、故障率が高いことが挙げられた。

この課題を解決するため、当町は次期端末にChromebookを採用する。ChromebookはOS自体の特性により、端末の起動時間が大幅に短縮できることが期待される。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的利活用

①教職員のICT研修の受講

従来のWindows端末からChrome端末へ変更するにあたり、令和6年度よりGoogleによる各種研修を実施する。教職員には事前にChrome端末を操作できる機会を作り円滑な移行を支援する。

②ICT支援員の活用促進

ICT 支援員 2 名で町内各校を 1 校あたり年間 60 回訪問するよう事業者と契約締結を行っていく。

③ 1 人 1 台端末の普段使いの取組み

町内の小中学校で 1 人 1 台端末の日常的な利用に向けた取組みを行っていく。現状では起動が遅いことが授業運営の障害となっていたが、次期端末に ChromeOS を採用することでその課題が解消されるため、さらなる利活用を推進していく。

④ デジタル教科書の実践的な活用

小中学校には新教科書に対応した指導者用デジタル教科書を整備し、各教室に設置されたプロジェクタを利用して授業で運用している。

(2) 個別最適・共同的な学びの充実

児童生徒が端末を利用する場面における、具体的な活用方策は以下のとおり
(自分で調べる場面)

近年の教科書には、児童生徒が教科書の内容以外に情報収集ができるよう、QRコードを掲載する等の工夫がなされている。令和 7 年度から運用する端末には QRコード読み取り機能を装備させ、教科書との連携を図れるよう整備していく。

(自分の考えをまとめ、発表・表現する場面)

学習支援ツールとしてロイロ・ノートを整備し、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場면을補助する。

(教職員と児童生徒がやりとりする場面、児童生徒同士がやりとりする場面)

GoogleClassroom と GoogleChat を活用し、児童生徒がネットワーク上で交流する機会を増やしていく。

(児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面)

ドリル教材の eライブラリを整備し、自身の学習進度に合わせて課題に取り組める場を提供する。

(3) 学びの保障

一人一台端末の日常的な利活用を継続するとともに、様々な困難を抱える児童生徒に対する端末を活用した支援として、「不登校児童生徒の授業への参

加・視聴機会の提供」、「希望する児童生徒への教育相談の実施」、「外国人児童生徒に対する学習活動支援」、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援」などを検討する。